

令和2年8月17日

地球規模保健課題解決推進のための研究事業  
日米医学協力計画の若手・女性育成のための日米共同研究公募に係る  
事後評価コメント

研究開発課題名	The balancing act: hepatic innate immune defense and viral evasion
研究開発機関名	国立感染症研究所
研究開発代表者名	フセイン ハッサン アリ

指摘事項

● 評価できる点

HBV 感染細胞由来エクソソームがクッパー細胞からの TLR リガンドによるサイトカイン活性化を抑制することを明らかにする等一定の研究成果が得られたこと、より大きな研究費申請のベースとなるデータとして活用されたことは評価できる。また、日米の研究チームの役割分担が明確で、日米間の協働関係が適切に構築されていたことも評価できる。

● 疑問点、改善すべき点

当初予定していた候補分子のうち、EV 由来のタンパク質 (HCV)、miRNA (HBV) 等の機能的な解析が一年間の研究期間内では終了しなかったため、今後も研究が継続されることを期待する。

以上